

藤野町内会では、令和3年度に 「地区防災計画」を策定しました！

地区防災計画とは？

地区防災計画は、地域住民による自発的な防災活動であり、東日本大震災を契機に平成25年に創設されました。

過去の災害において避難や救命救助などに大きな役割を果たしてきた地域での助け合い、支え合いの「共助の力」を育む取り組みです。

計画策定までの流れ

町内会役員、組長、民生委員、子供会役員などが地域の代表として集まり、被災地における支援活動の経験が豊富な認定NPO法人レスキューストックヤード（RSY）の協力を得て、ワークショップ（話し合い）を行いました。

大規模な風水害や地震の発生が危惧されるなか、地区の特性に応じた防災上の課題について積極的な意見交換を行い、令和4年度以降に取り組む防災活動の内容を作成しました。

ワークショップ1「地区の特性の確認」

- 強み：団結力がある、人付き合いが良く温かい
互いの家や顔が分かっている
- 課題：矢作川の決壊で最大5m～10mの浸水
南海トラフ地震で震度6強の揺れ、液状化



ワークショップ2「災害時の課題の抽出」

- ①災害への具体的なイメージづくり
被災すると私たちの生活はどのような？
地域でどれぐらいの被害がでるの？
- ②避難のタイミングの適切な判断
避難に役立つ情報をどうやって収集すればいいの？
一人で逃げられない高齢者、障がい者、子ども、外国人などは、
どうやって避難すれば良いの？
- ③ライフラインの復旧や備蓄
避難生活に必要なものは何？
町内会では何を備蓄しているの？



ワークショップ3・4

「防災活動メニューのアイデア出しと企画書の作成」

災害時の課題に対して、みんなで、今後地区で取り組みたい防災活動のアイデアを出しました。これをもとに5つの防災活動メニューの企画書を作成しました！



企画書は裏面を見てね！

藤野町内会でこれから取り組む防災企画

向こう3カ年の間に、地域で取り組みたい防災活動をみんなで考えました。このアイデアをもとに、来年度から藤野町内会の防災企画を進めます！

企画のなまえ	概 要
水害および地震に必要な資機材備蓄	・町内会で備蓄場所を選定し、備蓄の内容と量を検討する。 ・避難所ごとに非常食の試食会と備蓄品を活用した訓練を行う。 ・近隣企業が保有する重機を把握し、災害時の協力を求める。
水害発生時、全町民の安全確保	・地域を小グループに分け、グループ単位で避難の声かけや安否確認ができるしくみを作る（LINEアプリ導入）。 ・市の防災ラジオの保有状況を確認し、未整備世帯に購入を勧める。
災害発生時の困りごとを考える	・避難訓練時に各自の非常持ち出し袋を持ち寄り、中身を見せ合う。 ・防災の専門家の話を聞く。 ・昔の地震や水害の体験談、言い伝えを災害時に役立つ知恵としてまとめる。
備蓄品の確保と使い方の周知	・防災訓練時、何がどこにあるのか備蓄品リストを作成する。 ・子どもたちと一緒に工夫して、炊き出し用かまどや、段ボールの間仕切り、水のろ過装置などを手作りする。
避難訓練	・一時避難所に集合し、避難の時間や移動時の困りごとなどについてアンケートを取る。 ・自力で避難できない人を把握し、今後の対策を検討する。

地区防災計画づくりに参加した皆さんの声



ワークショップの後、「家族と災害時どうするか？」を真剣に考える家族会議を行いました。



どうしてもやらされ感が付きまとったけど、せっかく考えた計画。絵にかいた餅にならないようにしたいよ。



防災への意識づけになったと感じます。いろんなことが知れて、「早く安全な場所へ逃げる」ということへのハードルが、前よりも下がった気がするわ。



防災意識が上がって、みんなで地域を守ることの大切さを実感。この盛り上がりをいかに継続していくかが次の課題。

RSYからのメッセージ

近隣企業からの協力も取り入れながら、防災ラジオやLINEを使った避難判断や安否確認の方法を検討すると共に、避難生活で役立つ知恵や備蓄品を楽しく学ぶなど、創意工夫とチャレンジ精神旺盛な提案が印象的でした。「できることから始めよう！」を合言葉に、みんなでこの防災企画を一つひとつ実行していきましょう。